

（4）児童センター等

1）施設概要

① 施設一覧

児童センター等は、子どもの居場所として、一輪車などを使って遊んだり、図書室で本を読んだり、楽しく過ごすことのできる施設です。

現在、市が設置している児童センター等は、児童センター9施設と児童交流センター1施設の計10施設です。全10施設のうち、4施設が各地区公民館と併設しています。

設置目的：児童センターでの様々な遊びやイベントを通して、児童の健全育成を推進する

図表 施設一覧

名称	住所	延床面積 (㎡)	建築年度 (年度)	併設施設	備考
				公民館	
1 広田児童センター	重尾町63番地	482.52	平成7	●	広田地区公民館の1階の一部
2 早岐児童センター	花高一丁目1番45号	404.00	昭和59		
3 黒髪児童センター	黒髪町52番5号	369.80	昭和61		
4 稲荷児童センター	稲荷町2番5号	540.00	昭和55	●	南地区公民館の1階の一部
5 春日児童センター	春日町18番9号	339.45	昭和61	●	北地区公民館の1階の一部
6 大野児童センター	田原町8番37号	300.00	昭和56		
7 相浦児童センター	相浦町357番地	359.93	昭和58		
8 山澄児童センター	潮見町14番14号	539.09	平成15	●	山澄地区公民館の1階の一部
9 宇久児童センター	宇久町平1910番地1	560.99	平成10		
10 児童交流センターことひら	御船町364番地5	430.77	平成14		
合 計		4,326.55	—	—	

※市が設置している児童センター等を記載しています。（以下の表も同様です。）

② 事業内容

児童センター等は、幅広い子どもを対象に、地域住民や子ども会などの関係団体と連携し、様々な運動や遊びを通して子どもの健全育成を図るとともに、子どもが楽しく安全に過ごせるように施設の適切な維持管理等を行っています。

図表 事業内容

- 地域の子どもの居場所として、地域住民や子ども会と連携し、子どもの健全育成を図ります。
- 施設の適切な維持管理を行います。

③ 運営時間・運営日数

図表 運営時間・運営日数（平成22年度）

	運営時間		休館日	運営日数
	小学生対象	未就園児童対象		
児童センター	平日：午後0時30分 ～午後6時30分  土曜・学校休業時： 午前8時30分 ～午後6時30分	広田・早岐・春日・大野・ 山澄は火曜日・木曜日 午前10時～午後0時  黒髪・稲荷・相浦・宇久 は月曜日・木曜日 午前10時～午後0時	日曜日・祝日 年末年始	291日
児童交流センター	平日：午前10時 ～ 午後7時 土曜：午前8時30分 ～ 午後7時		日曜日・祝日 年末年始	291日

④ 利用方法

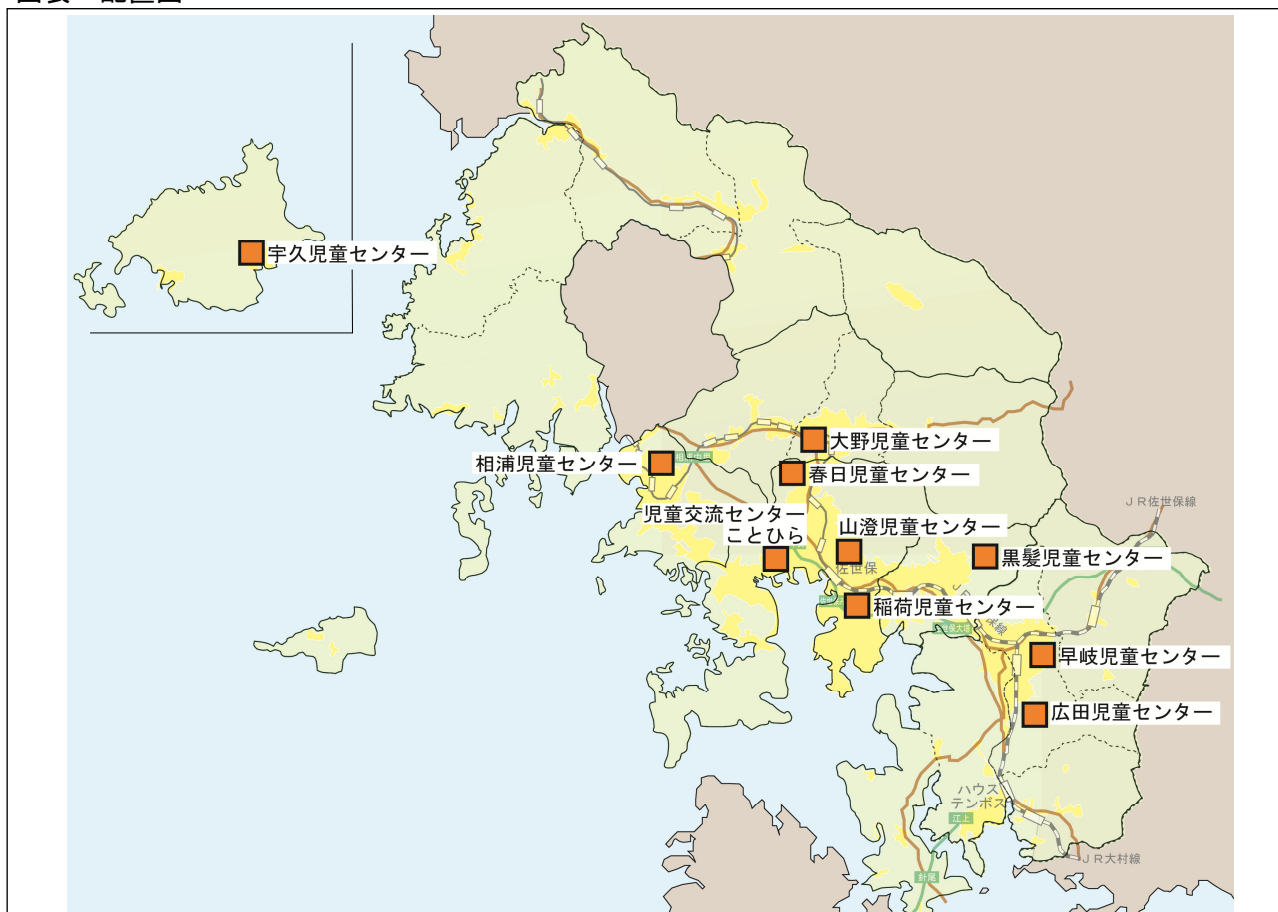
児童センター等を利用するためには、事前に住所、氏名、年齢等を登録する必要があります。登録できる利用者は、以下のとおりです。

- ・乳幼児及び小学校在学中の児童 ただし、乳幼児については、保護者が同伴すること
- ・子ども会等児童によって組織された団体

⑤ 配置状況

児童センター等は、市内に10施設配置しています。

図表 配置図



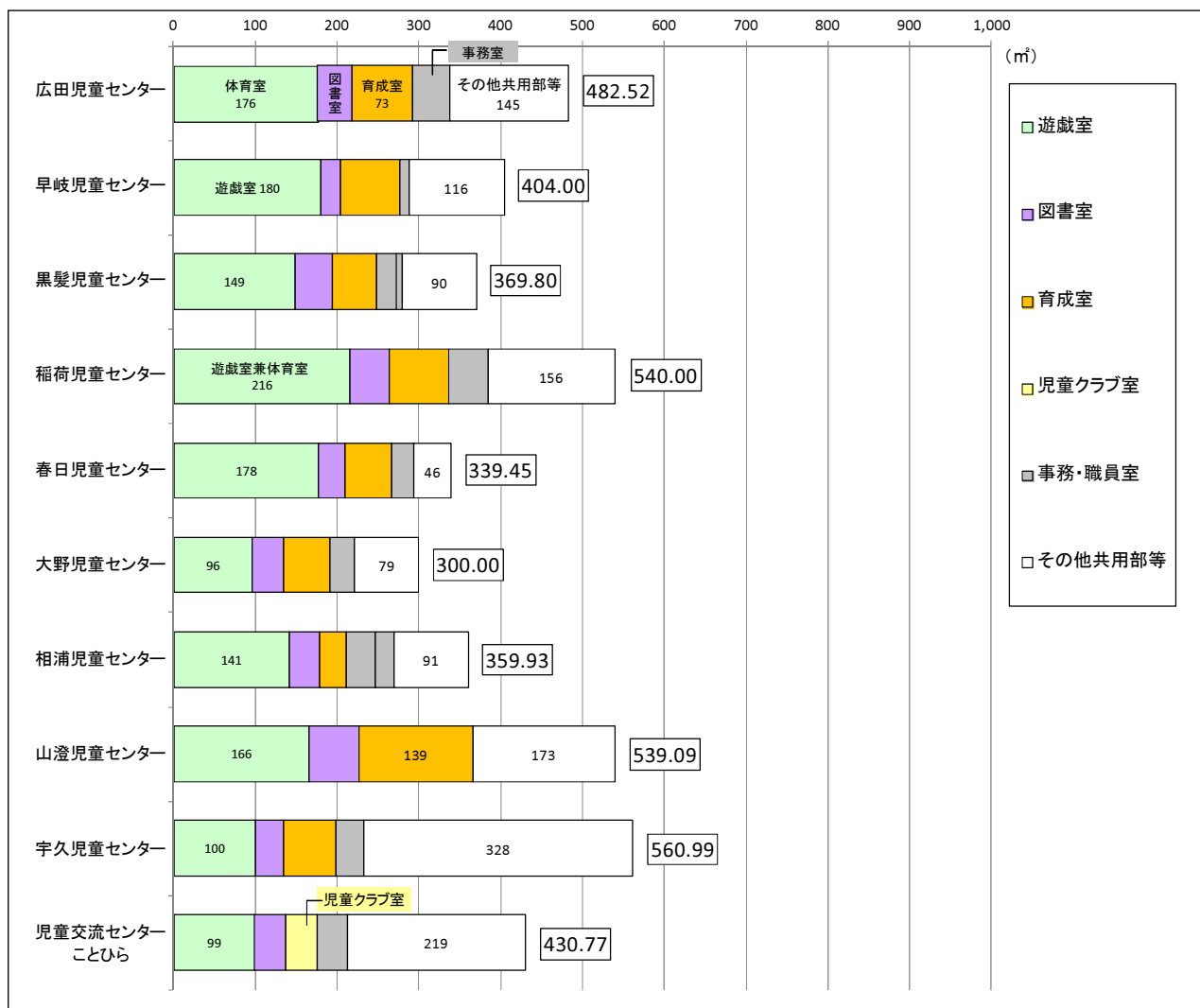
### スペース構成

児童センター9施設は、大野児童センターの300㎡から宇久児童センターの561㎡となっています。

児童センターのスペース構成の主な内訳をみると、遊戯室、図書室、育成室等です。児童センター9施設は、ほぼ同様のスペース構成となっています。

児童交流センターことひらには、児童クラブ室があります。

図表 スペース構成（平成22年度）



2) 実態把握

① 建物状況

■ 児童センター等の建物総合評価

児童センター等 10 施設について建物状況を把握します。

図表 建物状況（平成 22 年度）

No.	施設名	基本情報		①耐震化	②老朽化			③バリアフリー対応					④環境対応			⑤維持管理						
		建築年度	延床面積 (㎡)	耐震改修	築年数	直近の大規模改修	大規模改修または直近の年数	エレベーター※1	車いす用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	太陽エネルギー・自然光発電の導入	屋上・壁面緑化等	環境対応設備※2	光熱水費	建物管理委託費	各所修繕費	光熱水費	建物管理委託費	各所修繕費
1	広田児童センター	平成7	483	—	15	—	15	○	○	○	○	○	○	×	×	×	298	14,286	223	維持管理費が一括支出であるため、この用途では施設ごとの維持管理費の比較はしていません。	—	—
2	早岐児童センター	昭和59	404	—	26	—	26	×	×	×	×	×	×	×	×	250	11,961	186				
3	黒髪児童センター	昭和61	370	—	24	—	24	×	×	×	×	×	×	×	×	228	10,949	171				
4	稲荷児童センター	昭和55	540	—	30	—	30	○	○	○	○	○	×	×	×	334	15,988	249				
5	春日児童センター	昭和61	339	—	24	—	24	×	○	○	○	○	×	×	×	210	10,050	157				
6	大野児童センター	昭和56	300	—	29	—	29	×	×	○	×	○	×	×	×	185	8,882	138				
7	相浦児童センター	昭和58	360	—	27	—	27	×	×	×	×	×	×	×	×	222	10,657	166				
8	山澄児童センター	平成15	539	—	7	—	7	○	○	○	○	○	×	×	×	333	15,961	249				
9	宇久児童センター	平成10	561	—	12	—	12	×	×	×	×	×	×	×	×	347	16,610	259				
10	児童交流センターことひら	平成14	431	—	8	—	8	○	○	○	○	×	×	×	×	1,123	7,373	183				
合計・平均			4,327													3,530	122,718	1,980				

①、③、④の実施済み⇒ ○  
 未実施⇒ ×  
 記載例 不要⇒ —

※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等  
 ※2 節水型便器、高効率照明器具・LED照明、雨水・中水設備等

※児童センターの維持管理費が一括支出であるため、この用途では施設ごとの維持管理費の比較はしていません。

稲荷児童センターは、耐震診断によって耐震安全性が確認されています。しかし、築 30 年以上経過しており老朽化が進行しているため、改修等の老朽化対策が必要な施設となっています。

【パターン②】

早岐児童センター等 5 施設は、新耐震基準の建物ですが、今後、老朽化対策の検討が必要な施設となっています。【パターン③】

広田児童センター等 4 施設は、比較的新しい施設ですが、バリアフリー化や環境対応が必要な施設となっています。【パターン④】

図表 建物総合評価結果（平成 22 年度）

評価	パターン② 老朽化	パターン③ 今後老朽化	パターン④ バリアフリー・環境対応
説明	・かなり老朽化が進行している ⇒ 建替え又は大規模改修などの老朽化対策が必要な施設	・老朽化が進行している ⇒ 今後、老朽化対策の検討が必要な施設	・バリアフリー、環境対応が未完了 ⇒ 今後、バリアフリーや環境対応が完了していない部分の整備が望まれる施設
評価図			
該当施設	該当施設 建築年度 稲荷児童センター 昭和55 < 1 施設 >	該当施設 建築年度 早岐児童センター 昭和59 黒髪児童センター 昭和61 春日児童センター 昭和61 大野児童センター 昭和56 相浦児童センター 昭和58 < 5 施設 >	該当施設 建築年度 広田児童センター 平成7 山澄児童センター 平成15 宇久児童センター 平成10 児童交流センターことひら 平成14 < 4 施設 >
コメント	・耐震安全性は確保されているものの、築31～39年以上と老朽化が進行しており、改修工事などの検討が必要です。	・いずれも新耐震基準の建物ですが、築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。	・比較的新しい施設ですが、バリアフリーや環境対応が完了していないため、計画的な改修や効率のよい設備の導入などの対応が望めます。

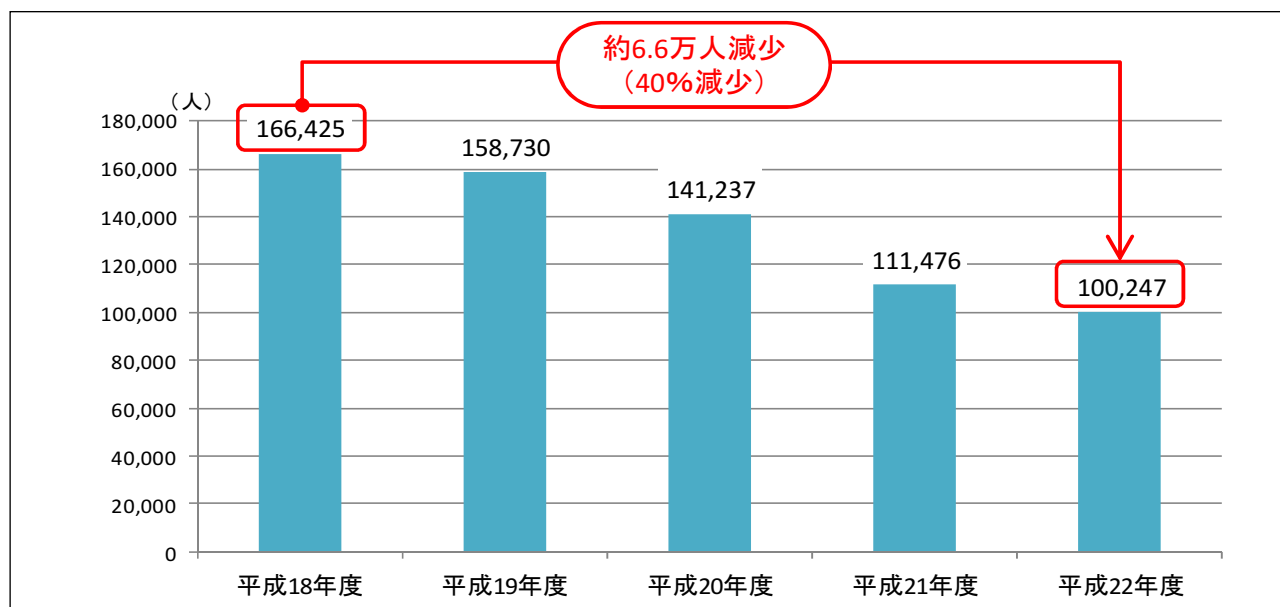
② 利用状況

■ 年間利用者数

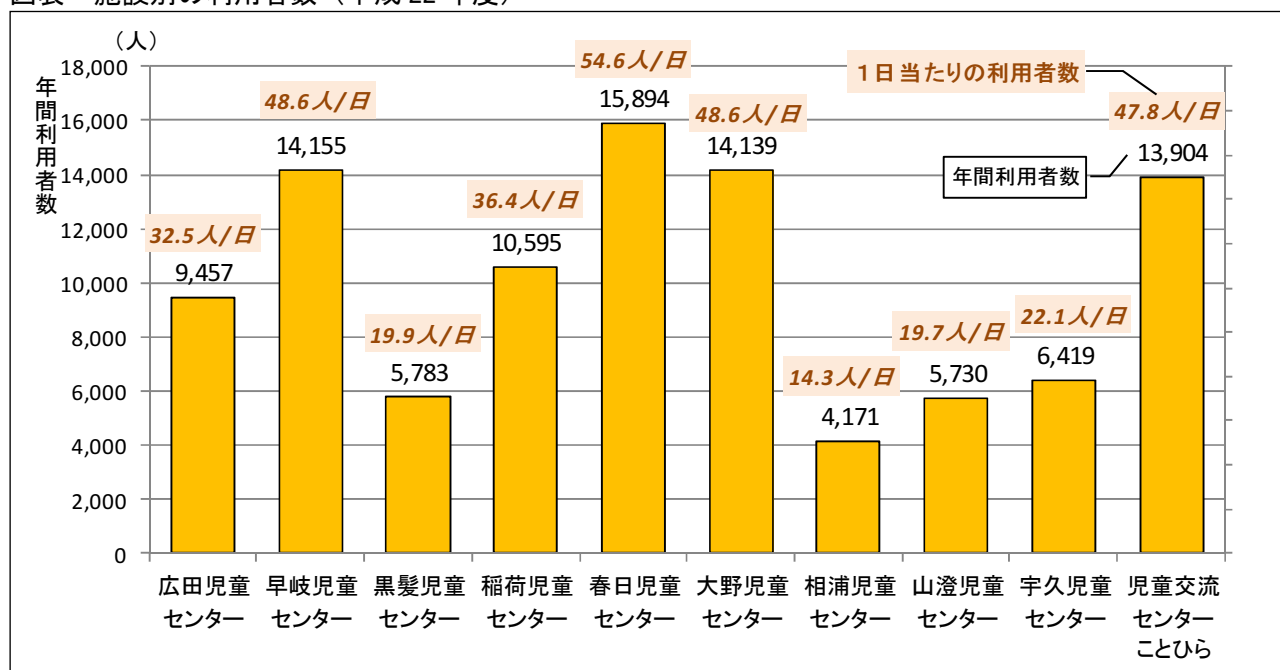
平成22年度の児童センター等の利用者数は、年間10万247人です。平成18年度からの推移をみると、約6.6万人（40%）減少しています。

施設別の利用者数をみると、最も少ない相浦児童センターが4,171人（1日当たり約14人）、最も多い春日児童センターが1万5,894人（1日当たり約55人）と、地域の人口や人口構成等によって施設利用に差があります。

図表 全施設の利用者数の推移



図表 施設別の利用者数（平成22年度）



③ 運営状況

■ 運営人員

児童交流センターことひらを除く9施設は、一括で指定管理を行っています。

施設ごとの従業者数をみると、全施設とも3人ずつ指定管理者の職員が配置されています。

図表 運営人員（平成22年度）

			広田児童センター	早岐児童センター	黒髪児童センター	稲荷児童センター	春日児童センター	大野児童センター	相浦児童センター	山澄児童センター	宇久児童センター	児童交流センターことひら	合計
児童センター施設管理・運営	指定管理	一般職員	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	30.0
	計		3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	30.0

④ コスト状況

児童センター等全 10 施設の年間トータルコストは、1 億 7,248 万円です。

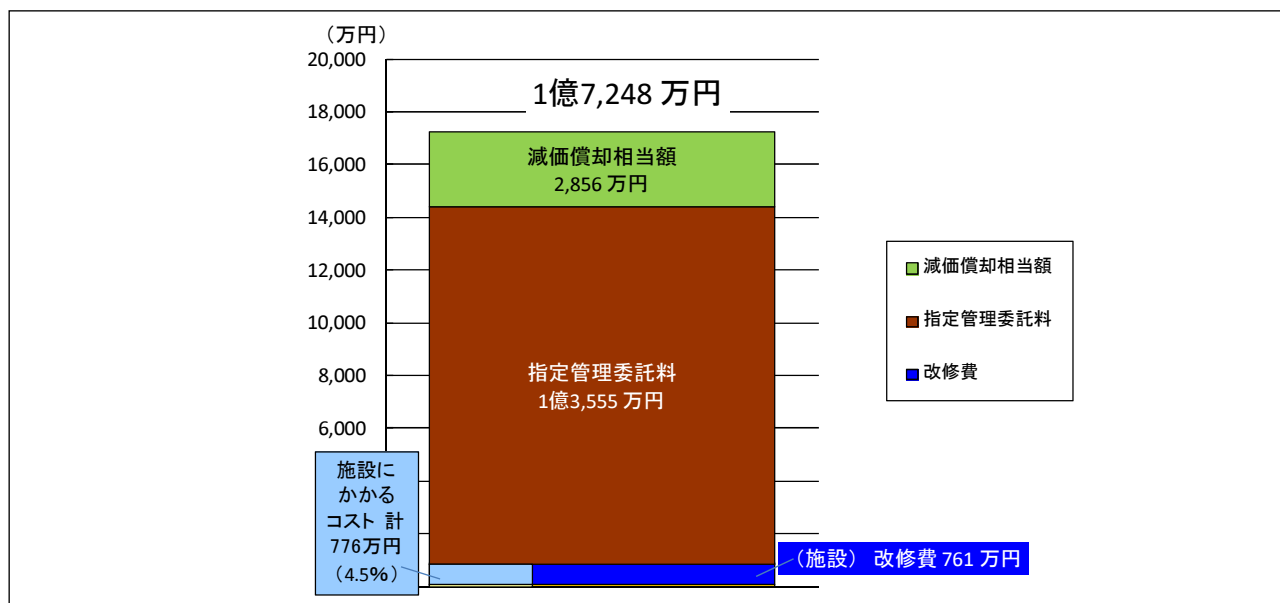
内訳をみると、施設にかかるコスト（改修費等）は 776 万円（5%）、事業運営にかかるコスト（車両・備品購入費等）は 62 万円（0.4%）、指定管理委託料が 1 億 3,555 万円でトータルコストの約 79%を占めています。減価償却相当額は 2,856 万円です。

図表 施設別行政コスト計算書（平成 22 年度） (円)

I. 現金収支を伴うもの【コストの部】		広田 児童 センター	早岐 児童 センター	黒髪 児童 センター	稲荷 児童 センター	春日 児童 センター	大野 児童 センター	相浦 児童 センター	山澄 児童 センター	宇久 児童 センター	児童交流 センター ことひら	合計
施設に かかる コスト	修繕費										152,880	152,880
	改修費		679,140		3,438,000		3,491,250					7,608,390
	光熱水費											
	施設にかかるコスト 計		679,140		3,438,000		3,491,250				152,880	7,761,270
事業 運営に かかる コスト	その他人件費											
	修繕費											
	使用料及び賃借料											
	車両・備品購入費		65,690	73,000		78,550	172,515	28,600	46,000	153,570		617,925
	負担金補助及び交付金											
	その他物件費											
事業運営にかかるコスト 計		65,690	73,000		78,550	172,515	28,600	46,000	153,570		617,925	
指定管理委託料		14,098,000	14,098,000	14,098,000	14,098,000	14,098,000	14,098,000	14,098,000	14,098,000	14,098,000	8,666,289	135,548,289
現金収支を伴うコスト 計		14,098,000	14,842,830	14,171,000	17,536,000	14,176,550	17,761,765	14,126,600	14,144,000	14,251,570	8,819,169	143,927,484
【収入の部】												
収入												
収入の合計												
II. 現金収支を伴わないもの												
コスト	減価償却相当額	3,184,632	2,666,400	2,441,076	3,564,000	2,240,370	1,980,000	2,375,538	3,557,994	3,702,534	2,843,082	28,555,626
III. 総括												
コストの部合計(トータルコスト)		17,282,632	17,509,230	16,612,076	21,100,000	16,416,920	19,741,765	16,502,138	17,701,994	17,954,104	11,662,251	172,483,110
収支差額(ネットコスト)		17,282,632	17,509,230	16,612,076	21,100,000	16,416,920	19,741,765	16,502,138	17,701,994	17,954,104	11,662,251	172,483,110

※児童センター指定管理委託料は 9 施設を一括して支出しているため、全体額を 9 館で按分しています。

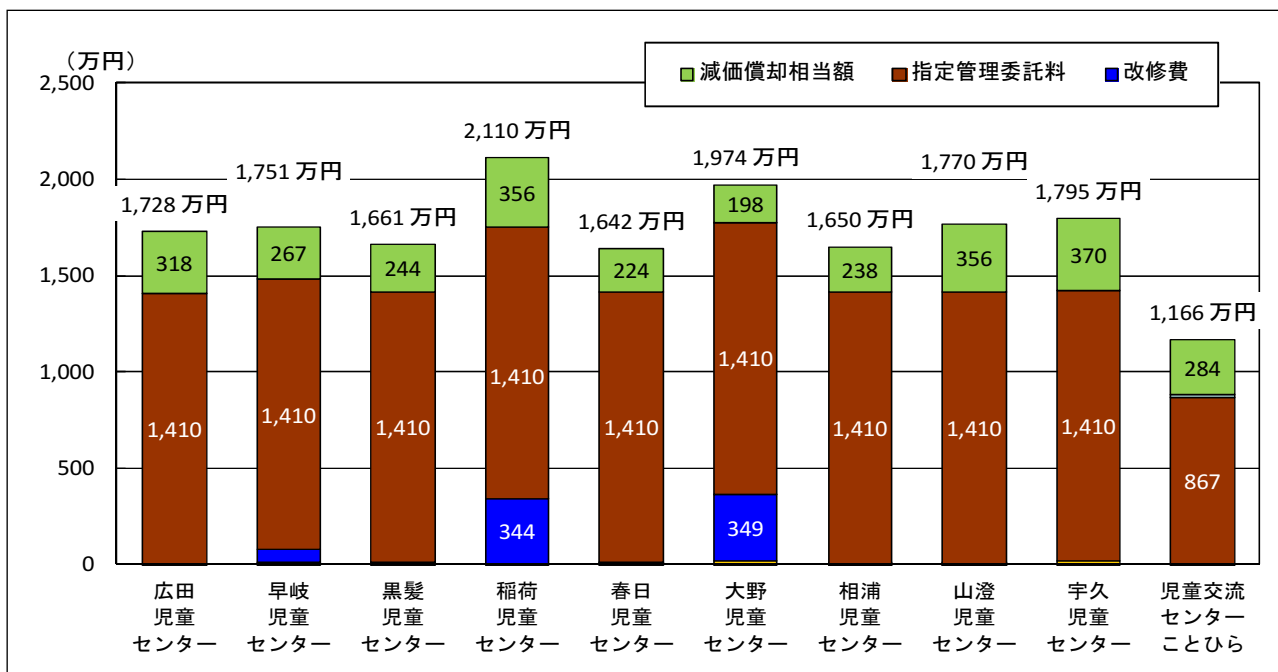
図表 全施設トータルコスト（平成 22 年度）



施設別トータルコストをみると、児童交流センターことひらを除く9施設が一括して指定管理を行っていることから、全施設ほぼ同額の指定管理料となっています（1,410万円）。

平成22年度は稲荷児童センター、大野児童センターにおいて、バリアフリー工事を行ったため、改修費が他の施設より多くなっています。

図表 施設別トータルコスト（平成22年度）



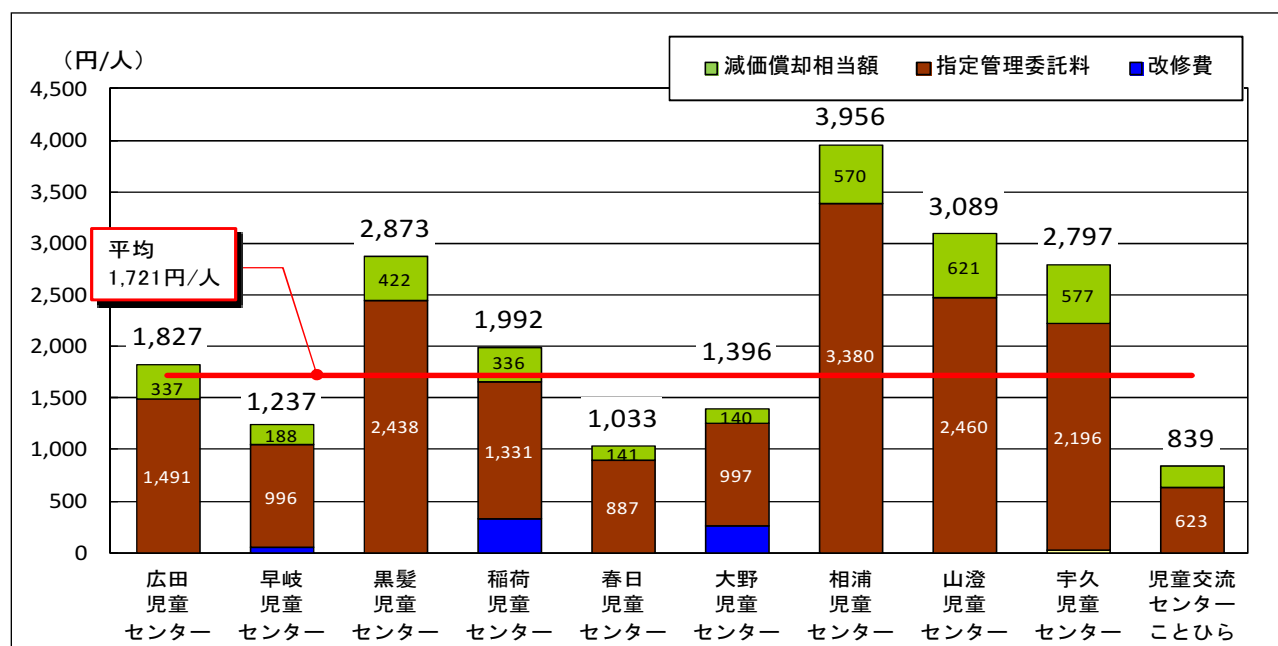
※児童センター指定管理委託料は、9施設を一括して支出しているため、全体額を9施設で按分しています。

### 3) 評価・分析

#### ■ 利用者数とトータルコストの関係（利用者1人当たりにかかるコスト）

利用者数とトータルコストから利用者1人当たりにかかるコストを算出すると、平均は1,721円です。施設別では、利用者数が最も少ない相浦児童センターが最も高く3,956円、児童交流センターことひらが最も低く839円となっています。

図表 施設別 利用者1人当たりにかかるコスト





#### 4) 今後の検討の視点

- 児童センター等 10 施設のうち 6 施設に関しては、今後計画的な老朽化対策が必要となっており、今後検討が必要となります。その際には、バリアフリー等の対応を含め、効率的な維持・保全計画を検討する必要があります。
- 一方、利用者は減少傾向にあります。年間利用者数が 10 万人以上あるので、児童センター等としての今後の維持管理における整備方針等を検討する必要があります。
- 現在の児童センター等は、全て社会福祉協議会を指定管理者として運営しており、全施設でのサービス内容の均一化を図っています。今後は、地域特性等に沿ったサービスの検討や、より効率的・効果的な管理運営の方法を検討する必要があります。